

# 令和2年お茶づくり技術情報 (No.10)

2020年8月7日  
佐賀県茶業技術協会  
佐賀県茶業試験場

## 1. 今後の管理

### 1) 深耕

茶園共進会における茶園の土壌硬度は年々高くなっており、根の伸長を促進するためにも深耕による土壌環境の改善が重要である。

①時期：8月中旬～9月上旬（山間部は早め（～8月下旬）に行う）

②注意点：深耕での断根による生育への影響を考慮し、樹勢低下が著しい場合や高温干ばつ時などには行わない。

本年7月の降水量は平年よりかなり多く（平年比 280%）、現在のところ、土壌水分は高く推移している。今後の気象状況を注視し、深耕実施の有無を検討する。

特に来年度中切り更新を計画している園や幼木園を中心に行うことで、深耕の効果がより高くなる。また、深耕前に堆肥等の有機物を施用することで深耕の効果の持続が期待される。

### 2) 施肥（苦土石灰の施用）

茶樹の生育に適した土壌 pH は 4.0～5.0 であるが、県内茶園の中には pH4.0 を下回る茶園が散見される。そのため、苦土石灰等の土壌改良材の投入による酸度矯正が必要である。また、苦土石灰は苦土の補給も兼ねることができ、有効である。

①時期：7月下旬～8月中旬（秋肥施用前）

③投入量：目安として 100kg/10a（苦土石灰の場合）

土壌や用いる土壌改良資材の種類によって投入量が異なるため、土壌診断結果に基づき、決定する。

②注意点：苦土石灰とアンモニア態窒素を含む窒素肥料を間隔を空けずに施用すると、アンモニアがガス化、揮散することがある。窒素成分が無駄になるだけでなく、根を痛めることがあるため、窒素肥料施用の前後2週間程度は間隔をあけるようにする。

### 3) 干ばつ対策

夏季は来年一番茶の母枝となる芽の生育期となっており、この時期に干ばつの影響を受けると、翌年一番茶の減収につながるため、注意が必要である。

#### (1) 敷きわら、敷き草

特に幼木園で土壌表面からの水分の蒸発が大きいいため、敷きわらや敷き草で蒸発および地温上昇防止に努める。

#### (2) かん水

水利の良い圃場では、10a あたり 10t を目安にかん水を行う（特に幼木園では土壌表面からの蒸散が大きいいため注意する）。水量に限られる場合は、夕方に葉水の散布を行う。

(かん水のタイミングの目安)

- ・ 土壌水分を pF メーターで測定し、pF 値が 2.3 を上回る場合
- ・ 5mm 以上の雨が降らない期間が 10～15 日続いた場合

#### (3) 整枝

干ばつ時に整枝を行うと樹の負担が大きいため、整枝は控える。

#### (4) 施肥・深耕

- ・ 干ばつ時は根が弱っており、肥料も溶けにくいいため、施肥は十分な降雨をみてから実施する。
- ・ 深耕についても、乾燥の助長や断根等マイナス面が大きいため降雨後に行う。

### 4) 台風対策

台風が接近した場合、大雨による水害や、強風による茶樹の物理的損傷を受ける可能性があるため注意が必要である。強風によって葉ずれを起こした場合、傷口から赤焼病等の病気が発生しやすくなる。

#### (1) 事前対策

- ・ 大雨による土壌流亡を防ぐため、園内外を巡回し集排水溝を点検、整備する。
- ・ 防風ネットを設置する。
- ・ うね間にソルゴー等を間作する。

#### (2) 事後対策

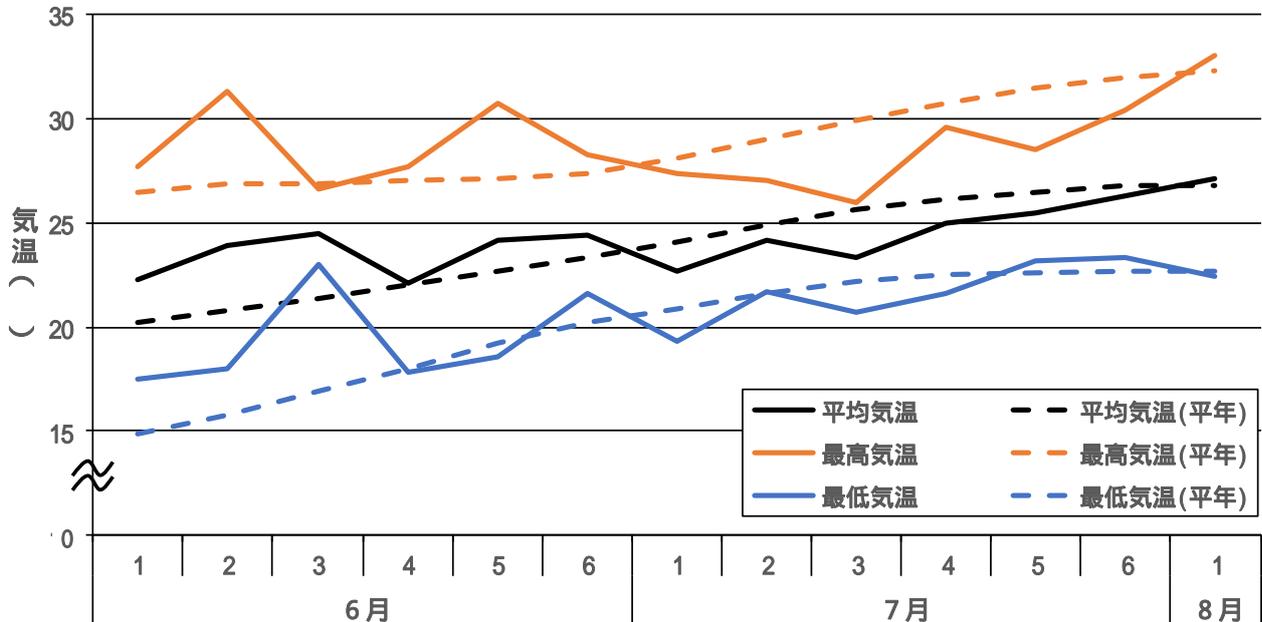
- ・ 強風で葉ずれした茶園では、できるだけ早く銅水和剤の散布を行う。
- ・ 幼木園では、マルチのはがれや株の浮き上がりを点検し、元の状態に戻す。  
株が動いた場合は、早めに土寄せを行い、敷きわら等で地際部や根を保護する。
- ・ 先枯れ、枝枯れ等、被害が大きい場合は、樹の回復後に被害部の直下でせん除する。
- ・ 被害園では樹勢の回復を最優先とし、整枝や施肥は控える。

## 5) 病害虫防除

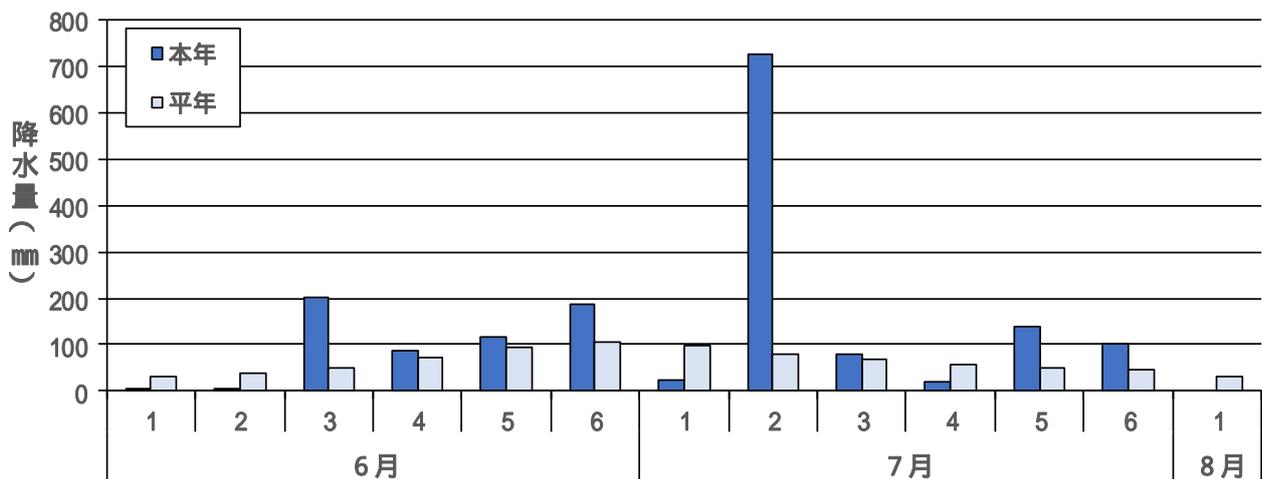
病害虫防除については、『令和2年度佐賀県施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき』を参照してください。

## 2. 気象概況

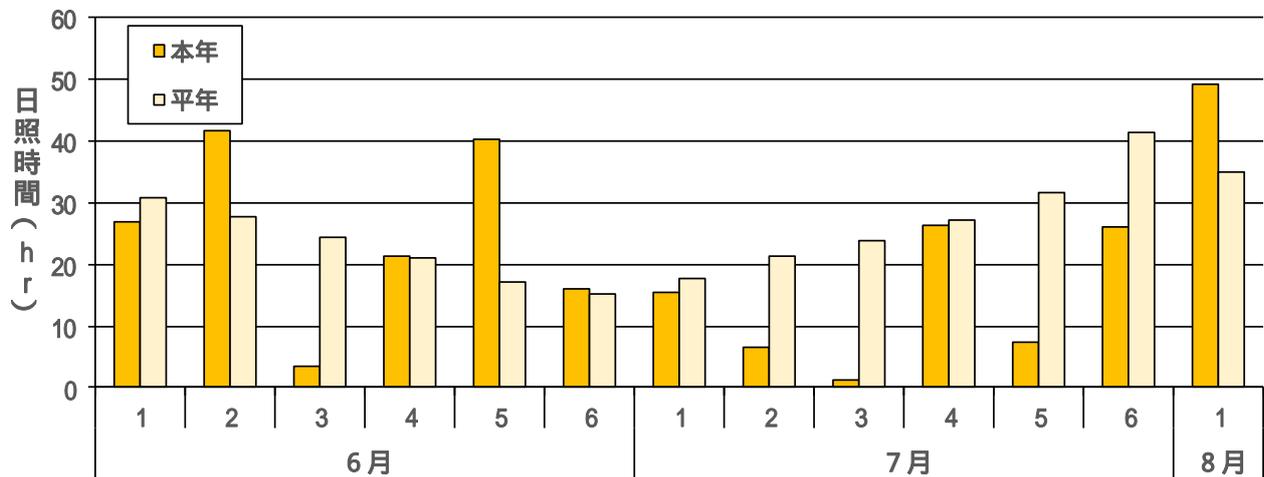
### 1) これまでの気象（6月第1半旬～8月第1半旬）



(1) 平均気温は、6月第1～3半旬まで平年より高く、6月第4～6半旬は平年並か平年よりやや高く推移した。7月第1～5半旬まで平年より低い気温となり、7月第6半旬以降は平年並に推移した。



(2) 6月第1、2半旬はほとんど降雨がなく、6月11日の梅雨入り後の6月第3～6半旬まで降水量が平年より多かった。7月第2半旬には日降水量が100mmを超える日が続き、7月第5～6半旬にもまとまった降雨があり、7月の降水量は1094mmと平年（391mm）の約3倍とかなり多かった。7月30日に梅雨明けし、それ以降は降雨がない。



(3) 日照時間は、6月は第3半旬で平年より少なかったが、それを除くと、平年並～多かった。7月は第1、4半旬で平年並であったが、第2、3、5、6半旬は平年より少なかった。8月第1半旬は平年より多かった。

## 2) 今後の気象

### ■ 1か月予報 (気象庁)

向こう1か月の天候の見通し  
九州北部地方 (8月8日～9月7日)

福岡管区气象台

1か月予報 (令和2年8月6日発表)

#### 1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温 (1 か月)	降水量 (1 か月)	日照時間 (1 か月)
九州北部地方	低 10 並 20 高 70% 高い 見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並 の見込み

- (1) 暖かい空気に覆われやすいため、平均気温は高くなる見込みで、特に期間の前半はかなり高くなる可能性がある。
- (2) 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。